

核データ情報・評価専門部会

データ検索システムW.G. 第7回会合議事録

日 時 昭和45年3月12日(木) 13:00~17:50

場 所 日本原子力研究所東海研究所 V.d.G. 建屋29号室

出 席 者 (五十音順)

浅見哲夫, 加藤和明, 川合将義(NAIG), 五十嵐信一,

金森善彦, 河原崎雄紀, 中川庸雄, 西村和明, 更田豊治郎,

山越寿夫(船研), 吉村富雄(船研)

(特別出席)

磯田和男氏(原研計算センター)

配布資料 国産電子計算機各種のパンフレット

議 事

1. 前回議事録確認。

訂正なし。

2. 電子計算機システムの調査案に対する本委員会の意向についての報告。

(更田, 五十嵐)

前回決定された電子計算機システムの調査案の一環として、国外のデータ・センターからアンケートを取ることの可否を2月2日の第5回本委員会にはかったところ、大要は、「まづ、自分達の案を作り、それに対する考え方を聞くべきであって、現状では、アンケートを出すべきでない。」との意向であったことが報告された。

当方のアンケート案について、アンケート項目自体は未推敲であることに誤解もあったようであるが、自主的調査・検討が先行すべきであるということにおいて、上記の意向は、W.G. としても本来望ましいものであるので、その姿勢で作業を進めることとし、今回のアンケート自体は中止す

ることになった。

3. 原研計算センター磯田氏の話

INISに関する話と、我々の考えている範囲の電子計算機システムに対して、計算センターの次期大型計算機との関連も含め、いろいろなアドバイスがあった。

4. 国産電子計算機について。（吉村、山越）

配布資料を中心にして、国産の中、小型計算機（TOSBAC 3400-21, NEAC 2200-250, FACOM 270-20, HITAC 8400, MELCOM 7500, OKITAC 7000）について詳細な説明がなされた。

5. 今後の予定

計算センターに次期大型計算機が入ることが具体化したことは、W.G. の前回会合（1月22日）以後の大きな情勢の変化である。この具体化によって、核データ研究室（あるいは核データ・センター）が独立の計算機システムを持つべきか否かの問題は、計算センターの計画とより密接な関係を持つことになった訳である。

この情勢の変化および前記アンケートの中止を考慮に入れて、計算機システムの調査に関するW.G. の作業計画を再検討した結果、先ず先決問題である「核データに関して、計算機を必要とする仕事にどのような種類と量があるかを検討し、推定を具体的に定量化すること」に着手することとし、次回には、各人提出の推定メモを資料として討論することになった。

6. 次回

4月23日（木）東海で行なう。

次回議題

- 1) 情報検索に関する文献の紹介（加藤氏）。
- 2) 上記の推定メモを資料とする討論。